

小 1 問題の一場面

小学校入学式（金曜日）の後、隣の席になった男の子が、「友達になってね」と声を掛けてくれた。3 カ日後の月曜日、「友達をたくさん作ってくるね！」と、ピカピカの 1 年生の彼は、楽しそうに出かけて行った。

ところが、翌火曜日から学校に行くのを嫌がり、休みがちになってしまった。1 週間経ってもその状態が続いた。聞くに、お母さんが一緒に学校に来てくれれば、学校に行くと言う。母親は会社に相談し、休暇の手続きを取った。（実際、休暇後も母親同行は改善されず、休職にして頂いた。）

彼は母親と同じく会社員の父親、4 歳上の姉と暮らす。

翌日、確かに母親が彼と一緒に行けば、彼は学校に行く。ところが、彼が校門に入ったの見定めて、母親が帰ろうとすると、彼も慌てて校門から戻ってきて母親についてくる。仕方なく母親は彼と一緒に教室に入り、後ろで立って様子を窺っていた。その姿を見た担任の先生は、会議室から椅子を持ってきた。母親はそれに座り、じっと彼の授業を受けた。そんな日々が 5 月連休まで続いた。

連休中、両親が学校の話を持ち出すと、彼は拒否した。連休明けの日も彼は、学校に行けなかった。担任の先生の電話にも出ない。

翌々日の朝、母親が彼に声を掛けたら、彼の姉に「お母さんは、子どもの気持ちが分かっていない」と言われた。母親は驚いた。姉にそれ以上聞いても言わなかった。彼はそんな母親の姿を見て、無言のまま母親と一緒に登校した。

5 月の下旬、翌日の運動会に向けて、両親は担任の先生と話し合った。運動会当日朝、彼は運動会参加を嫌がったが、特別支援の先生が彼についてくれたため、参加できた。母親は応援席の後ろで立って観ていたが、彼は母親が居なくなると不安な様子で、何度も後ろも振り返った。お昼は母親と一緒に教室で、みんなと食べた。

数日後、朝、登校班で登校した。昼休みに友達と外に遊びに行き、休み時間に一人でトイレにも行き、朝顔の水あげにも行けた。

6 月上旬の朝、彼は毎日提出物を先生の机の上に出しているのに、提出物がなかったよと言う先生に、なぜか提出物の出す場所が分からないから、提出物を出さなかったと主張する。母親はそのことが気になった。昼休みには、6 年生のペアと外に遊びに行けた！。

翌日朝、雨の中、途中で立ち止まったりして学校を歩き回り、普段 10 分ほどでいく学校に、1 時間以上をかけて登校する。学校に着いても門の中に入れずにいたら、担任の先生が迎えに来てくれた。

その時、担任の先生は躊躇なく、何が嫌で学校に来れないのかを聞いたら、彼は「授業が嫌だ！分からない」と即答した。「じゃあ、座っているだけでもいいよ」と言うと、すんなり教室に入っていった。

数日後も行き渋ったが、母親と一緒になら行けた。3 時間目の国語の授業に市教委が視察に

に来られた。先生の授業がいつもと違う声かけに、母親は驚いた「支度が早いね」「発表する人、見てるね」「静かに待っててえらいね」と、優しい話し方で笑顔があった。落ち着いた授業だった。

翌日、担任の先生と学年主任、教頭先生も加わり、話し合いの時間が設けられた。母親は気になっていることの一部を伝えた。

1年生なので、鉛筆や筆箱、消しゴム、御道具箱をよく落とすが、その都度「うるさい！落とすな」と怒鳴る。

少し理解が遅い子がいるが、体育の時間に、「〇〇くんは、分からない子だから、周りの子が教えてあげて」と、本人のいるところで伝えた。同じく体育の時、グラウンドで体育館すわりしていて半分くらいの子が砂を触っていた。すると、「授業中だ！遊ぶ時間じゃない！遊びたい人は幼稚園か保育園に戻りなさい！」と、叫ぶ。

授業中、騒がしくなってきた時、「うるさい！黙れ！」「うるさい！今、しゃべって人、外に出なさい！」と怒鳴る。

そのたびに、子どもたちはビクつき、ちぢこまる、と。

次第に様子が分かってきた。

給食の後、吐いてしまった子がいて、先生は迅速な対応をしていた。翌週、別の子も給食の後、吐いてしまった。先生はその子に「すぐ水道で服など洗ってきなさい」と、怒り口調で言い、その子が水道に行くと、「つとに、あいつ、吐くまで食べやがって！！」と、先週吐いてしまった子がいる前で、しばらく怒っていた。

給食の片付けの特に、給食を残す場合、先生に「残してもいいですか？」と聞くが、先生に怒られる子がいるため、怖くて聞けない子もいる。

まだまだこのようなことがたくさんあり、書いてもキリがない。「小1問題」の現場の一部を垣間見た。幼稚園や保育園では「遊び」が中心で、殆ど怒鳴られたこともなかった子どもたちは、小学校に上がると「学習」が始まる。すると、理解や作業に個人差が現れる。集団授業や集団行動に支障も現れる。そうするとこうしたことも起こる。ただ、まだ小学校に上がったばかりの子どもたちである。母親は、起こる前に「静かにするよー！」といったワークショップの言葉と、怒った後何が悪くて怒られたかのフォローが欲しい、と私に言われた。私は先生方の心の余裕だとも思う。勿論、彼は母子分離不安も持ち合わせているが、それだけではない。

前述の通り、先生方とも話し合いですべてを伝えたわけではないが、話し合い後、担任の先生は外で待ってた彼に謝罪してくれた。その後彼は、度々登校班で登校することもあったが、母親同行は離せない。先生が出張で別の先生になると、母親から離れて授業に参加できた。そんなに簡単に癒えるものではない。その後の彼にはこのことが永く続いた。

実はこの話は先生方との話し合いから4か月後、当時上の姉のことで相談を受けた時、母親から聞いた話である。